

# グループホーム いなほ園

## 地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

↑ 取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>			
1. 理念と共有			
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている		
	認知症の介護の基本「ゆっくり、一緒に、楽しく」を当法人の理念に掲げ、利用者一人一人に合わせたケアを展開する基になっている。		
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる		
	施設内に理念を掲示し、全員が周知できるように取り組んでいる。又、毎朝10時の挨拶の時に職員及び入所者と共に、一緒に読むようにしている。		
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる		
	施設内に掲示すると共に、利用者御家族には重要事項等にも掲示している。		
2. 地域との支えあい			
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りてもらえるような日常的なつきあいができるように努めている		
	地域の方に会うと必ず挨拶を行うようにしている。特に隣近所の方には、裏庭でも声を掛け合うように親しくさせて頂いている。利用者の方も、挨拶や世間話を気軽に行え、親しい関係が出来ている。		
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている		
	地域の行事には、町内の運動会、夏祭り、どんど焼き等極力参加し、事業所とは違う場所での交流も行っている。又、施設行事の時には、地域の方にも参加して頂いたり、ボランティアの方が頻会に遊びに来てくださっている。		

## グループホーム いなほ園

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	自治会に加入し、地域行事への参加や事業所行事には地域の方をお呼びし、積極的に交流を行っている。地域ボランティアの登録があり、不定期に施設に来所している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	スタッフ全員で記入に取り組み、検討する事で意識が高まる様にしている。		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度運営推進会議を行い、御家族・地域の方への報告を行っている。行事・地域交流での様子など、利用者様の状況を分かりやすく伝える様努めている。又、御家族様との意見交換の場としても活用し、利用者様にとってよりよい環境作りに努めている。		
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	2ヶ月に一度運営推進会議に地域包括センター職員が参加し情報交換等、又、法人の会報誌やパンフレット等を持参し行き来する機会を持っている。		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	制度に関するパンフレットや書籍を揃え、職員及び御家族様への周知を図っている。又、研修などにも積極的に参加し、常に理解を深める様に努めている。		
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	月一度のミーティング、及び事業所内での研修で取り上げ、話し合い、確認する機会を設けている。日々の介護においても、虐待がないかミーティングを通し、管理者を含め全職員で細かく話し合っている。		

## グループホーム いなほ園

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	入所前に認知症対応型生活介護の説明を分かりやすく説明し、契約を結ぶ様にしている。		
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	運営推進会議が2ヶ月に一度行われ、利用者様の御家族様の家族や地域の方、スタッフなど意見を聞く場が設けられている。		
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	一ヶ月に一度、月末に御家族様に手紙を書き、利用者様の園での生活を報告している。		
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	玄関に意見箱を設置し、御家族様等の意見・苦情を知る様にしている。そして、苦情・意見があった場合は、有難い意見として受け止めミーティングで改善策を話し合っている。		
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	代表面談を年に2回行い、理事長とゆっくり話し合う時間が設けられている。職員が直接意見や提案を述べている。		
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	利用者様や御家族様からの要望があった場合、その都度対応し、月に一度のミーティングの時に全職員に申し送っている。		
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	スタッフの入れ替わりはなるべく避けている。やむを得ない異動は、時期をずらすなど利用者様へのダメージを最小限にしている。		

## グループホーム いなほ園

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	<p>人権の尊重</p> <p>法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるように配慮している。</p>	<p>職員の採用にあたっては、性別や年齢等を理由に採用対象から排除しない様になっている。又、職員の昇給昇進の機会を増やしたり、外部研修への参加及び資格取得の支援をしている。</p>		
20	<p>人権教育・啓発活動</p> <p>法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる。</p>	<p>社内研修において「認知症の人の望ましい接し方及び暮らし」についてグループワークを行い、人権尊重についても考える場を持っている。</p>		
21	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>定期的に研修の時間を設けたり、講演会に参加し、職員の知識や意欲の向上を図っている。管理者研修等にも積極的に参加している。</p>		
22	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>福岡県高齢者グループホーム協議会の会員として入会し、同業者と一緒に勉強会や懇親会等で交流に努めている。</p>		<p>当法人の運営するグループホームやまびこは同じ地域に所在しており、人事交換等による現場実習において、初心を学ぶ事等を再確認できるように取り組みたい。</p>
23	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>年に一度慰安旅行を行ったり、年に二回懇親会を開く等して職員同士がお互いに悩みや思いを打ち明けられる機会を設け、介護のストレス軽減に努めている。</p>		

## グループホーム いなほ園

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
24	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	主体性を持って働けるような環境を整備している。又、ご家族等からのお礼やお褒めの言葉は惜しみなく伝え、やりがいのある仕事である事を実感できるよう取り組んでいる。		
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
25	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	利用者様のニーズを本人自身からよく聴き、受け止める努力をしている。利用者様が話し易い雰囲気作りに努めている。		
26	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	面会時や電話などで、スタッフが御家族様の要望や悩みをよく聴き受け止める努力をしている。		
27	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた時に、本人と御家族様のお話を聴き、その時必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。		
28	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	サービスをいきなり開始するのではなく、初めは見学のみ・食事だけ・午前中だけという様に、短い時間のサービスから始め、利用者様の負担にならない様に努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
29	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	一緒にドライブや買い物に行き、楽しい時間を過ごしたり、時には悩みを聞いてもらい一緒に涙したり、喜怒哀楽を共にし支えあう関係を築いている。		

## グループホーム いなほ園

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
30	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	御家族様との連携は常に行い、本人にとって今何が必要か一緒に話し合い、情報を共有し支えていく関係を築いている。		
31	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	本人とご家族様のそれぞれの意見・要望・悩み等をしっかり受止める努力をスタッフ一人一人が行っている。		
32	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	居室の個人空間には、自宅から持って来られた家具や置物等を使用して頂き、安心して生活が出来るように努めている。又、行事や催し物等に御家族様や知人を招待し、関係が途切れない様に支援している。		
33	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	気の合わない方同士にはなるべく距離が取れ、且つ孤独にならない様スタッフが話し相手になる等している。利用者様同士会話が成り立たない時は、スタッフが間に入りスムーズに会話が続く様にし、気の合う方同士に近くに座って頂き、楽しい雰囲気でご過ごせる様に努力している。		
34	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	催し物・行事等のお知らせを前もって行い、いつでも気軽に来訪して頂ける様な雰囲気作りをしている。		
<b>. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
35	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人とたくさん関わり、会話する機会を作り、信頼関係を築く中で希望・意向を聞き出し、実行出来る様にしている。困難な場合には、御家族様に本人の生活歴を尋ね、その中からニーズを話し合う機会をスタッフ同士で作っている。		

## グループホーム いなほ園

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
36	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前に、趣味、特技、生活歴等、御家族にフェイスシートに記入していただいている。又、入所後も会話から聞きだしたことも、その都度記録に残すようにしている。		
37	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	スタッフが一緒に一日を過ごす中で、その方の過ごし方を知り、又、残存能力を把握する事で、より良い支援に努めている。職員同士で、常に情報の共有をしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
38	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	まず、担当のスタッフがアセスメントをおこない、課題を見出している。又、日々の生活で、本人や、面会に来られた家族とお話し、ニーズをしっかりと把握した上で他関連施設等と連携し介護計画を作成している。		
39	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	月1回のミーティングで各利用者の介護計画の見直し、モニタリングをおこなっている。対応できない変化が生じた時には、その都度臨時会議を行い、場合によってはご家族の参加も呼びかけている。		
40	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	全利用者に個別記録用紙を作り、変化や気づきを、その都度記入し、全職員が把握出来る様にしている。又、病院受診や介護計画のモニタリングの際に、見直せるようにしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
41	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ご本人や、御家族からの話しを聞き、状況に応じ、出来るだけの支援を行えるように努力している。		

## グループホーム いなほ園

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
42	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	定期的に地域ボランティアの方が事業所に訪問していただき、交流して頂いている。又、消防署立会いのもと消防訓練を行ったり、地域住民に参加して頂いたりしている。		
43	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	現地点においては、そのような意向もなく外出の機会として、近くの公民館などに散歩に出かけるなど工夫をし、本人のグループホームでの生活の充実を図っている。		
44	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	2ヶ月一度の運営推進会議への参加や、法人の他事業所(通所介護)等で、相談を受けたりと連携を取っている。		
45	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	三浦整形内科・外科クリニックのお二人の先生、黒田皮膚科の先生・有松歯科医院と、往診出来る体制を整えていると共に、必要であれば他科にいつでも受診出来る様にしている。		
46	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	専門医の外来日等を把握し、何かあれば受診出来る体制となっている。利用者様と共に、ご家族様等へも情報を伝え、支援している。		
47	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	管理者が看護師であり、利用者様の体調などで変化があった場合、いつでも気軽に相談する事が出来る。又、週に一回看護師の訪問があり、利用者様の様子を確認して頂いたり、相談する機会を設けている。		

## グループホーム いなほ園

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
48	<p>早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	利用者様が入院された時は、病院側との情報交換に努め、早期退院に向けての話し合いが持たれている。		
49	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	終末期に対する対応について、かかりつけの医師や家族との話し合いがあり、職員同士でもミーティングで方針を話し合っている。		
50	<p>重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	スタッフ全員で利用者様の暮らしを支え、支援出来る様に努めている。変化があった場合、すぐにご家族様・病院等に連絡・対応を行える様にしている。		
51	<p>住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>			現在、看取り以外で退所した利用者様はいないが、今後退所される方が出た時は、移り住む側の関係者や各事業所に情報の提供を行っていききたい。
<p><b>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b></p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>				
52	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	自尊心を傷つけない様な声かけ、対応を徹底している。個性を重視し、その方らしい生活が送れる様支援している。		

## グループホーム いなほ園

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
53	利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	入浴日には一緒に衣類を選び、好みの洋服を着て頂いている。自己表現が困難な方には、こちらから働きかけ意思を伝えやすい雰囲気・声かけを行っている。		
54	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様一人一人のペースに合わせて自由に過ごして頂ける様に支援している。又何かしたい・どこか行きたいという希望が出た場合は、出来る限り取り入れ満足した日々を送れる様に努めている。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
55	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	「髪を切りたい」「パーマをかけたい」等要望があった場合は、ご家族様に連絡し昔馴染みや行きつけの美容室に行ってもらっている。又、ご家族様の来所が無理な場合は、いなほ園の近くの美容室に行っている。		
56	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の配膳・盛り付けは声かけし、なるべく利用者様と一緒にしている。又、昼食作りという機会を作り、利用者様・スタッフ班割りし食事作りを行っている。後片付けも利用者様の負担にならない程度で行って頂いている。		
57	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	昼食作りという機会を作り、利用者様の要望でメニューを決定したり、誕生会ではそれぞれの好みの物を聞き取り入れ提供している。又、お刺身の日・お正月等にはお酒を出し、季節行事や食事を楽しめるようにしている。		
58	気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄パターンを考慮した上で、定期的にトイレ誘導の声掛けを行ない、失禁等で気分を害さないようにしている。		

## グループホーム いなほ園

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
59	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	一番風呂がいい方、最後にゆっくり入りたい方など、出来るだけ本人の希望に合わせ入って頂くようにしている。		
60	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣を大切に、その人のペースで休んで頂けるようにしている。日中でも休みたいという訴えがあれば、状況に応じて休んで頂くようにしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりその人に合った役割が持てるよう支援している。また、ドライブや散歩などを行い気分転換できるようにしたり、レクリエーションを行い楽しく過ごせるよう支援している。		
62	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望があればお金を所持してもらったり、こちらで預かっており買い物時に本人が財布を持参し、好きなものを購入できるように支援している。		
63	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	希望があれば出来る限り散歩や買い物、ドライブに出掛けられるよう支援している。また、希望がなくてもお誘いし、気分転換ができるようにしている。		
64	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	行きたい場所を尋ね、出来る限り外出出来るよう支援している。特に花見などの行事には、必ずご家族に声掛けして参加して頂ける様にしている。		

## グループホーム いなほ園

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
65	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	「自宅に電話したい。」「 さんは大丈夫かしら？連絡をとりたい。」などの訴えがある時は、すぐに電話して頂ける様になっている。あまり激しい訴え、何度も続きご家族の負担になりそうなときは、いつでも電話できるという風に安心して頂ける様な支援をする。		
66	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	訪問があった際にはお茶などをお出しし、ゆっくりとお話し出来るような雰囲気づくりを心掛けている。お帰りになる際には次回の来訪の声掛けを行ったり、手紙などで声掛けを行ったりしている。		
(4)安心と安全を支える支援				
67	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ミーティング、勉強会の際、身体拘束について話し合う機会を設けている。全職員が具体的な行為、内容をしっかりと理解し、日々のケアに取り組んでいる。		
68	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	9時～18時までは必ず開錠している。やむを得ず施錠する場合は理由をご家族へ報告し了承を得てから行っている。また、施錠した場合は全職員が把握しておき、開錠できる状況になれば、必ずすぐに開錠するようにスタッフの声かけも行っている。		
69	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	スタッフ同士の連携により、利用者様の所在は常に分かるようにしている。個別に外出する場合は、必ず外出の際に万一の為に携帯電話を持ちいつでも連絡がつくようにしている。残るスタッフに細かく伝えて全職員が把握し安全に努めている。		
70	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	ホーム内に危険になるような物はなるべく置かないようにしている。部屋中を徘徊される方がいるので危険防止のため、危険になるような物は手の届く場所には置かないようにしている。		
71	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	誤薬がないように服薬を見届け、ミーティングの際には防災の知識を話し合っている。玄関に音の出るチャイムを設置し、単独外出防止を行っている。スタッフ同士の連携で事故防止に取り組んでいる。		

グループホーム いなほ園

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	心肺蘇生や、介護事故に対する研修を定期的に行い、全職員が処置法を把握している。又、日常的に管理者や医師に尋ねる等して、いざという時の対応に備えている。救急救命士による職員への救命救急講習を開き、勉強できる機会を与えている。		
73	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に2度消防訓練を実施。地域の方に協力して頂き災害時の為の地域者緊急連絡簿を作り、訓練時は必ず地域の方に声かけし、参加していただいている。避難経路、避難場所は全職員が把握し、落ち着いた対応が出来る様にしている。		
74	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	リスクについては、ご家族に十分に説明し、身体拘束廃止による取り組みにおいての転倒リスク、又、ターミナル気をどこですぐすかについて事前に確認を取っている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
75	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	朝のバイタル測定時、異常や変化があった時には、再測定をして夜勤者が日勤者に申し送っている。再度、午後から測定し、異常があった場合はすぐに施設長に報告し、指示を仰いでいる。		
76	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は全利用者の服薬している薬の目的、副作用、用法、容量について理解しており、処方箋は個人ファイルにとじ、保管している。症状の変化がある時には、施設長及び医療関係者に報告し、指示を仰ぐなどの対策を取っている。		
77	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	勉強会を通して、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、水分摂取の声掛けを行ったり、食物繊維の多い食材を多く食事に取り入れる等の工夫をしている。又、毎朝体操と散歩を行い、個々の状況に合わせて運動の時間を作っている。		

## グループホーム いなほ園

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	食後は必ず口腔ケアへの誘導を行っている。また、上手く口腔ケアが行えない利用者様に関しては、トウスイエツテを利用するなど、個人のレベルに合わせ、確実に行えるよう支援をしている。		
79	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事のバランスはしっかりと配慮しており、食事量は毎食チェック、記録を行っている。また1日3食とは別に10時3時にも水分摂取を行っている。一人ひとりの状態に合わせ、摂取量が少ない場合は、記録し、こまめに水分摂取を促したりしている。		
80	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	こまめに手洗いをして頂くよう声掛けを行い、スタッフも一つの動作ごとに必ず手洗いをし、感染防止に努めている。また、対応についても、申し送り、資料として細かく記し、全職員が把握できるよう徹底している。シーツ交換は週一回(日曜日)に実施している。		
81	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理用具は毎晩漂白剤に浸け、また台所周辺も夕食後クレンザーで洗い、拭き上げを行い、清潔に努めている。食材は常に新鮮なものを使用し、食中毒防止にも努めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
82	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	日中(9時~18時)は開錠し、利用者様や御家族、近隣の方等が安心して出入り出来る様にしている。また、玄関前、庭に花壇を作り、季節を楽しめ温かい雰囲気になるよう工夫している。		
83	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間には不快な音、光が入らないよう配慮し、やむを得ない場合は、あらかじめしっかりと説明、謝罪の声掛けを行うよう徹底している。常に花を飾ったり、壁の装飾も季節ごとに変化させ、季節感を味わって頂ける様工夫している。		

## グループホーム いなほ園

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
84	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	広いリビングの中で、二ヶ所のテレビやソファを置き、居場所作りの工夫は行われている。		
85	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様が以前使用していたタンスや鏡台を居室に置き、居心地の良い場所作りの工夫をしている。		
86	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	朝は窓を開け空気の入替えをしている。外気温との差を気を付けエアコンを使用したりとこまめな対応をしている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
87	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個別に居室があり、本人の意思により散歩や昼寝など自立した生活が送れるようにしている。		
88	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	トイレの場所が分かるように赤いバラの造花を飾り、一人でも行けるように工夫している。		
89	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ベランダではテーブルを置きお茶を飲んだり、食事をしたりする時間を持てるようにしている。庭には季節の花を植えた花壇がある。		

グループホーム いなほ園

. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
項 目			
90	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
91	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
92	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
96	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
97	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

## グループホーム いなほ園

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
98	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
99	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
100	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
101	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
102	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

### 【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

日中は園内ばかりで過ごすのではなく、買い物に行ったり、散歩やドライブに行き、楽しく生活できるようにしている。また、外出しなくても外の空気を感ずけるように、ウッドデッキで日光浴をしたり、食事ができるようにしている。

地域の方にたくさん来訪して頂き、交流の場を作ったり、地域の行事に参加するなどして地域に密着した事業所になるよう取り組んでいる。

春夏秋冬を感じれるよう、季節の花を部屋に飾ったり、庭の花壇に植えたりしている。

法人内の「グループホームやまびこ」「宅老所やまびこ」との交流を図り、互いの行事に参加し、利用者が楽しめる場を増やせるよう取り組んでいる。